

健康・生活 〈健康状態の把握〉

・視診や、検温受け入れ時の伝達により健康状態を把握します。

〈健康の増進〉

- ・長期休みや学校休業日の活動後は、ゆっくりと体を休める休息時間をつくります。自分の体に気付き、体調が悪い、痛い、元気などの表現が出来るように支援します。
- ・安心した場所、人の中で穏やかに楽しく過ごせるよう環境を整えます。

〈基本的な生活スキルの獲得〉

- ・自分でやりたい、やってみたいの気持ちを大切に「出来た」が味わえるよう援助しながら、手洗い、着脱、排泄を繰り返し経験します。出来た事だけでなく、やろうとする姿を褒め意欲につなげます。
- ・生活の中で、快、不快を言葉で代弁します。汚れたり、濡れたら着替えをし「すっきりした」「気持ちが悪い」「気持ちが良い」等、感情の気づきを育てていきます。
- ・友達や職員と一緒にご飯を食べ、食べる嬉しさ楽しさを味わえるように支援します。
- ・簡単な調理活動を通し色々な食べ物に触れ、食への興味を広げていきます。

〈生活習慣や生活リズムの形成〉

- ・生活の流れをホワイトボードで確認します。「次は何の時間」と見通しを持ち生活が出来るよう支援します。

言語・コミュニケーション

〈コミュニケーション能力の向上〉

- ・友だちとの関わりを楽しめるように遊びを見守り、子供同士の気持ちを職員が言葉で代弁し意思疎通をはかります。

〈人と相互作用によるコミュニケーション能力の獲得〉

- ・思いを受け止める事で言葉や仕草が伝わった喜びを感じられるようにします。
- ・「何を言いたいのか」話を聞いて受け止めます。「もっと話したい」「伝えたい」と意欲的になれるよう気持ちを汲み取りながら丁寧に関わります。
- ・職員が積極的に挨拶し、挨拶の心地良さ、適した言葉を伝え、挨拶が気持ちよく出来るようにします。
- ・表情や態度により気持ちを汲み取り、気持ちの表出方法を伝え、自分の要求や思いを仕草で伝えようとする姿を育てます。

〈状況に応じたコミュニケーション〉

- ・きれいになった喜び、さっぱりした気持ち良さが味わえるよう言葉にして伝え、体感と感情を合わせていきます。
- ・職員が動きを言葉にし、言葉と行動をあわせ伝えることで言葉の理解、発語の獲得につなげます。

人間関係・社会性

〈愛着形成と安定〉

- ・好きな場所や、興味をもった事に共感してもらったり、職員も一緒に遊ぶ事で、楽しさを伝えていきます。
- ・職員に絵本を読んでもらったり、好きな絵本を手に取り一緒に見たりなど、ゆったりした時間の中で職員との関係を深めます。自分の居場所となり安心感を持ち穏やかに過ごせるようにします。

〈自己理解と行動の調整〉

- ・ひとりで、じっくり、遊べる環境を保証する事で、安心したり、嬉しさを十分に感じられるようにします。その中で、自分の感情を正しく理解し、相手の感情にも気付き、理解出来るように支援します。

認知・行動

〈認知の特性の理解と対応〉

- ・一人一人の認知の特性を正しく把握します。そこからこだわりや偏食などに対する支援を行ないます。楽しい雰囲気の中で美味しく食べれるような環境作りをしていきます。

〈認知や行動の手がかりとなる知識、概念の形成〉

- ・名前を呼ばれたら返事をするなど自分の存在、呼ばれた嬉しさを感じられるようにします。

〈対象や周囲の適切な認知と行動の習慣〉

- ・褒めてもらったり、気持ちを受け止めてもらう事で、「自分はここにいて良い、気持ちを表現して良い」と安心して気持ちを表現出来るよう支援します。
- ・自然物で工夫して遊ぶなど想像力を引き出しながら、実際に触れ体験する遊びを多く経験出来るようにします。時には上手い出来ない悔しさを感じるなど色々な感情と出会いながら、経験を増やしていきます。
- ・友達の姿や周りの状況に目を向けられるようにし、周りの状況に気づき、その状況を受け入れる気持ちを育てます。

〈状況の変化の理解と適切な行動の習得〉

- ・お集まりで日付、天気などに触れ数字や文字、気象の変化に気付き、興味を持てるようにします。
- ・物品と名称が一致するように実際見たり、触れたりしながら伝えていきます。

運動・感覚

〈姿勢と運動・動作の基本的な技術の向上〉

- ・日常生活に必要な動作が安全に出来るよう姿勢保持や体軸、筋力の維持、強化が出来るよう色々な動きを楽しく取り入れます。
- ・職員が気持ちを代弁する事で、自分の感情に気づけるようにします。気持ちを受け止めてもらう事で、感情をコントロールしたり、約束やルールを守り行う経験を積んでいきます。
- ・粗大遊びで、大きく体を動かす事で、気持ちを発散させたり、動こうとする意欲を育てていきます。
- ・見本を見せたり直接介助する事で、感覚をつかんだり、自分の体に興味もてるようにします。
- ・微細遊びで、手元を見ながら集中し、落ち着いて行える時間を増やしていきます。箸、鉛筆の正しい持ち方にも繋がるよう指先の力もつけていきます。

〈持っている感覚の活用〉

- ・上記のような活動を通し、見る、聴く、触れる、嗅ぐ、動く、揺れるなど、色々な感覚を受け入れ、楽しく生活できるよう支援します。



児童発達支援